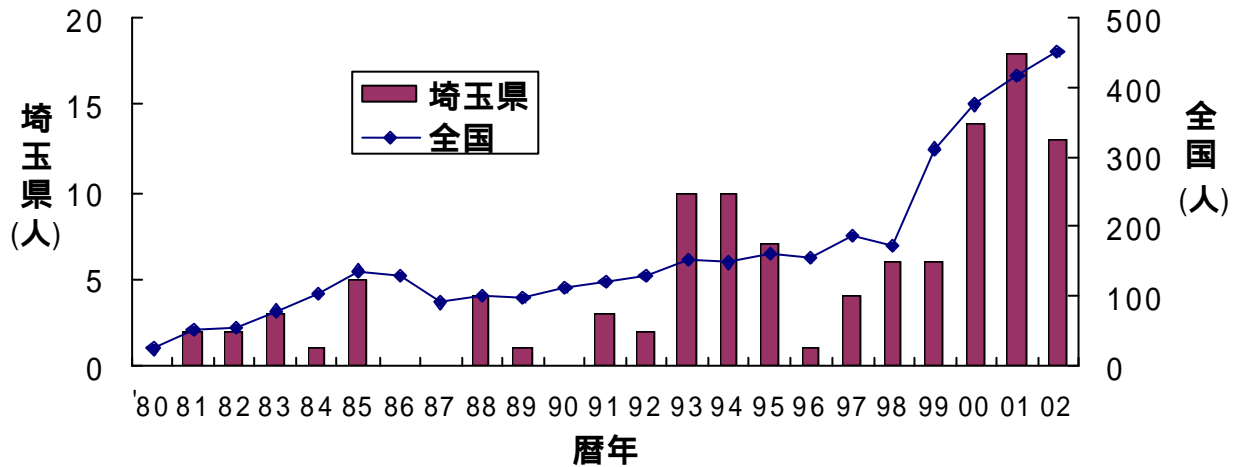


アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は赤痢アメーバ (*Entamoeba histolytica*) による感染症である。主に、熱帯及び温帯地域に広く感染者が存在する。我が国では浸淫地からの輸入感染例だけでなく、国内での感染例も見られる。

埼玉県内及び全国における本症の患者届け出数の推移を、下記のグラフに示した。県内では、1993年と1994年に各10名の患者発生が見られたが、例年0~7名程度で推移していた。しかし、感染症法が施行された翌年2000年の届け出数は14名、2001年18名、2002年13名と増加傾向が見られる。一方、全国の届け出数では、1999年には312名とそれまでのほぼ2倍となり、2002年には453名とほぼ3倍となっている。

アメーバ赤痢患者数の推移



通常、粘血便や肝膿瘍液には、栄養型が見られるが、死滅し易いので、検体採取後1~2時間以内に検鏡することが望ましい。また、なるべく37℃に近い状態で輸送する必要がある。一度でも、凍結・融解した検体では、栄養型を確認することが困難となる。糞便中のシストは、冷蔵であれば数日間安定して保存できる。糞便検査では、1回の検査に留めず、連続3日間程度の集中検査をおこなうことで、検出精度を高めることができる。